


「地域論」の展開

- ・「**地域論**」…「**地域性**」の把握と説明こそが地理学の本質とする考え方。
- ・「**地誌**」… 地域論的研究の成果＝特定地域の「**地域性**」を描いた著作
 - ※文学的な「紀行文」ではなく、「**科学的**」な観察・分析・叙述による研究成果。
- ・「**地誌学**」… ある地域の「**地域性**」を科学的に描くには、地域の何をどう記述し構成すべきか… に関する理念と方法論、および事例的**地誌**作成。

- ・「**地域区分**」…「**地域性**」の科学的描出の中心となる方法。「**地域**」とは一定の特性を共有する地表の部分的「**まとまり**」
- ・「**地域差**」と「**地域性**」… 大半の分布事象には「**地域差**」がある。どれほどの「**差**」があれば「**まとまり**」＝「**地域**」と判別し得るか、またその「**まとまり**」が偶然的産物ではなく、その形成理由やプロセスが**科学的**に説明できるか… この2点が明らかにされて「**地域性**」と認識できる。

- ・1887,Leipzig大学で学位取得
- ・1888-90 南米旅行
- ・1898,Heidelberg大学教授
- ・同僚の科学哲学者との交流から、**地理学**を事象の配置や**場所的特性**の記述とその由来を探究する「**空間科学**」と規定。
- ・1907,欧州の地理区分
- ・1908～世界地誌編纂のため、世界旅行(1914来日)
- ・1928,『**地理学方法論**』



・Alfred Hettner (1859-1941)

・Dresdenの名家に生まれ、幼少時から各種科学に親しむ。特に地質学、地形学に傾倒。

・23歳,Columbiaの首都に家庭教師の職を得て赴く。

・3年間の滞在経験からColumbiaの地誌を出版

(2)描写を、科学的な記述の水準まで高める。

そのためには…

- f)記述の対象は、**科学的考察**を通して選択されたものであり、典型的**特質**を**図式化**するように、**説明的**に記述する(羅列的ではなく)。
- g)(説明を科学的にするため)豊富な**文献調査**の裏づけがあること。

※例えば、「**市町村史・誌**」との違いを端的に言えば、「**相観**」を「**科学的**」に分析して描いた「**分布図**」、「**景観図**」が基本となるかどうかという点で、「**地誌**」書とは顕著な違いが出る。**歴史資料**によるだけでなく、できるだけその事象を「**分布図**」に描くことを重視する。

(3)地域の特徴を**歴史的**にとらえるとともに、**都市**を中心とする**地域接触**を地域の特徴形成の**主因**と考える。… **歴史性**,**機能的**地域観


- h)地域の性格は**人間を中心として**語られるものであること。**住民が自然の上に加えた変更が重要**であり、住民の**生活の累積**を知り、それを**歴史的・動的に追求**すること。
- i)地域生活の理解には、**歴史を超えて住民に作用している心情や風習**にまで観察を広げる。
- j)地域的生活は、おのずから**生活機能の中心**＝**都市**を結晶させる。都市が地域生活の中心として果たしてきた役割とその変遷をとらえることで地域は理解される。
- k)**都市**が地域の中心としての機能を果たすのは、**交通系の発達**によってである。**地域の肖像画**の最後の仕上げは、**交通系の発展**と、それによって成立した**生活様式(genre de vie)**とを解明することで完成する。

地域論と地誌学

ヴィダル＝ド＝ラ＝ブラーシュ

- ・「**地域論**」地理学＝**地誌学**の最大の貢献者
- ・**史学**と**自然科学**を融合させた「**生活様式**」をキー概念とする「**地誌**」作成法を編み出す。

- ・南仏貴族の家に生まれる。
- ・大学で史学を学び、21歳で史学教授資格を取得
- ・当時の地理は、史学の一部で専門分野とはみられず。それに不満を感じて、Ritterの感化を受けて**科学的な**地理学研究法を探究。
- ・1867～70,イタリア,中東に遊学
- ・1870,ナンシー大学地理学教授
- ・1898,パリ大学地理学教授



Paul Vidal de la Blache (1845～1918)

そのためには…

★ブラーシュの「**地誌**」作成法

(1)「**相観**」を通じて**地域の特徴**を捉え、それを**生き生きと描き表す**こと。

a) **地域**を象徴する**相観**を全体的に把握し、それを広い**地域的まとまり**に関連づける。

b) **相観**の描写は、その地域でみられるものすべてを描くのではなく、地域で**最も典型的**で**基本的なもの**をとりあげる。それは**純自然的なもの**のみにとどまらない。

c) **耕作景**とその**歴史的推移**もとりあげる。

d) これらの**相観描写**とその**歴史的展望**から、**人間生活の客観的に常に変わらぬ特徴**をうかがいあがらせる。

e) 諸事象が**関連しあつて**地域の**相観**が形づくられていると考えて記述する。

そのためには…

- ・端的にいえば… 地域記述の中心テーマとなるのは「**生活様式**」
- ・その主たる手がかりは、**自然の利用**改変の**歴史**を通して成立した「**相観**」。
- ・その方法は、「**地的統一**」(unite terrestre)という言葉で代表される。

…それはまさに、**フンボルト**の「**コスモス理念**」を引き継ぐもの。

- ・このコンセプトは「**地誌**」記述の**原理**となり、これに基づいて着手された「**世界地誌**」の編纂が弟子たちにひきつがれて1941年に完成。
- ・また、地理学の学位取得の条件として「**地誌**」の作成が伝統となり、弟子たちによる多くの「**地誌**」書が刊行された。
- ⇒クセジユ文庫(白水社)にいくつか訳出

- ・彼の考えは「**人文地理学原理**」に集大成… 邦訳1960年,岩波文庫
- ・彼の「**自然は人間による改変対象とされてこそ意味ある**」との規定は、後に「**環境決定論**」に対して「**環境可能論**」と呼ばれるように。
- ・こうした「**地誌**」作成を目標とする地理学の流れは「**地誌学派**」と呼ばれる。

※地理学史の参考文献… 野間三郎『近代地理学の潮流』,水津一郎『近代地理学の開拓者たち』

・フランス**社会史学**への影響… ブラーシュの著作は、史料解釈にとどまらず、出来事が生まれた**環境**や**感性**を重視する「**アナール学派**」の**歴史学**にも影響 ⇒ フェーブル『**大地と人類の進化**』(岩波文庫),ブローデル『**地中海**』(藤原書店)

★問題点 ①科学とアートの両面性

- ・地域の「すべて」を記述しつくすことはできないわけで、分析の過程でその地域の特性、つまりは「地域性」を適切に**感取**し、記述の「**焦点**」を絞りこむ作業が重要。
- ・この「感取」には**個人**の経験に基づく**直感**や**恣意性**が入るが、「**絞り込み**」の手順は「**科学的**」でありたい ⇒ **art**と**science**の複合
- ・「**生活様式**」を「科学的」な方法で「生き生き」と描くには、「**地域性**」を**scientific**な**分析力**、**artistic**な**表現力**の二つが必要。

⇒「**地誌学**」は科学の枠を超える特質が。

②「歴史」とダイナミズム

- ・**地域性**を言い当てる上で**何が重要か**は**時代状況**によっても異なる。
⇒「**常に変わらぬもの**」だけでは**ダイナミズム**に欠ける。
- ・地誌書を**art**作品(紀行文学等)と比べると、**個人的心情**の描写がなく、**物語性**に欠ける ⇒ **art**的「**感動**」を呼びにくい。
- ・民族誌、ルポに比べて**説得性**に欠ける
... 百科事典や目録のようなもの
- ・サンテグジュペリの地誌(地理)批判

★しかし... 世界がめまぐるしく変動し、どこかの出来事が短時間のうちに世界中に影響する時代。うつろいやすい「**art性**」や「**心情**」よりも、変化の背後にある「**構造的な地域性**」を「**客観的事実**」とともに探究する「**地誌**」の役割は、教育の場面で重要。
... **関連情報**をフル活用して、「**地域性**」**素材**を整理する役割を担う。

「地域」への関心の広がり

(1) Area Studies

- ・ところで、世界の地域性についての研究分野は**地理学**だけではない。
- ・特に戦後、アメリカで盛んとなった「**Area Studies**」(「**地域研究**」,「**地域学**」)が人気分野となっている。世界の主要国や地域ごとに学会もある。
- ・**Area Studies**の起源は、第二次世界大戦時、アメリカが世界戦略の推進のために、途上地域とソ連・東欧諸国の情報を収集・整理し、また将校たちに各国の言語を習得させるために各大学に設置したコースに端を発する。
- ・特に、最大の敵国**日本**については、西洋人には不可解としか映らない日本人の考え方や行動様式を研究するため、**ミシガン大学**に「**日本研究所**」を開設して、日本のあらゆる情報の集積・研究を担わせた。
- ・そうした機関の研究者たちは、**言語**の習得、現地での**長期滞在**を通した**伝統文化**や**社会・政治・経済**の仕組みなどを**トータル**に研究した。
- ・戦後、その遺産を基礎として誕生したのが「**Area Studies**」。
- ※アジア系では... 日本研究: **ミシガン大**, **極東: ワシントン大**, **中国: ハーバード**, **東南アジア: エール**。イギリスでは、**ロンドン大**の**SOAS**が有名。
- ・日本では、通産省の外郭団体として設立された「**アジア経済研究所**」がある。
- ・1970年代から、各大学に様々な**地域研究**の学部や研究組織が誕生。

サンテグ・ジュペリが描いた「**地理学者**」

Saint-Exupéry (1900~44)

- ・1943刊「**星の王子様**」
- ・童話エッセイの体裁をとり、子供の心を失ってしまった大人に向け、人生で大事なものは何かを示唆。
- ・有名フレーズ... 「**大切なものは目に見えない**」(Le plus important est invisible)
... その例が以下の図:



- ・「**へんな大人**」として、「**自分の机から離れない地理学者**」を登場させる。
- ⇒「**外見**」しかみない**地理学**を暗に批判?

・文中に登場する独自のイラストは、今や商標に。



- ・1900年、リヨン生まれ。
- ・スイスの学校で文学を学ぶ。
- ・志願して陸軍**飛行連隊**に入り、軍用機の操縦士に。退役後、民間の**郵便飛行会社**へ。
- ・26歳、飛行体験に基づく小説で作家デビュー
- ・「**夜間飛行**」,「**人間の土地**」など
- ・1939年、第二次大戦に召集され飛行教官を務めた後、**偵察飛行隊**に配属。
- ・1940年6月、ドイツ軍のフランス侵攻でアメリカへ亡命。志願して北アフリカ戦線へ赴き、1943年6月、**偵察飛行隊**に着任。
- ・1944年7月31日、フランス内陸部の偵察のため単機出撃し、**地中海で行方不明**に。
- ・1998年、マルセイユ沖で操業中の漁船が、名前が刻まれたプレスレット発見。
- ・宮崎駿「**紅の豚**」のモデルとも。

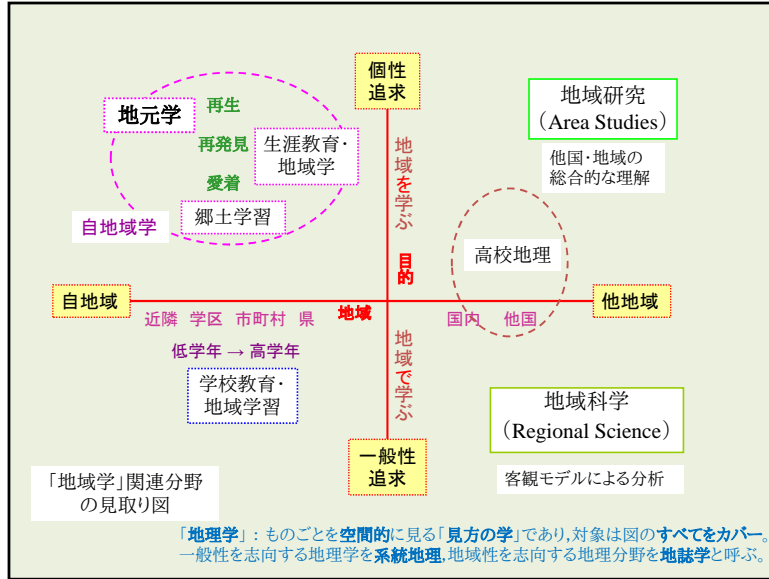
(2) Regional Science

- ・1960年、経済学者アイザードによって、「**Regional Science**」と呼ばれる分野が創始された。
- ・それまで「**国**」レベルの分析を主としてきた経済学に対して、「**立地論**」を基礎とし、当時ようやく整備されてきた**地域経済データ**と**統計分析手法**、そして急発達をとげる**コンピューター**を駆使して、「**地域**」レベルの**地域経済**の状況や**産業立地**効果などを**計量モデル**によって分析を行う分野で、「**地域科学**」として日本にも導入され、当時の花形分野となった。

(3) 自地域学, 地元学

- ・高度経済成長が終わる**1970年代**半ば頃から、**過疎山村**で展開され始めた「**村おこし**」や、**グローバル化**の影響が広がった**90年代**以降の**地方**における地域産業の苦境の中で、「**地域の価値を見直す**」という動きが、各地に芽生え、広がった。
- ・やがて各地の**市民講座**などで「**京都学**」とか「**山形学**」といった地域を学ぶ講座が作られ、それは**社会教育**としてのものから、**商工会議所**などが主催する「**地域づくり**」としての活動まで、多様になってきた。
- ・「**山形学**」創始者の1人・**米地文夫**は、それを総称して「**自地域学**」(**オラホロジー**)と呼ぶ。
- ・これと別に、91年頃、**仙台**と**水俣**で、ほぼ同時に、「**地元学**」という、自地域を学ぶ取り組みが誕生。その取り組みは各地で注目され、今や**発展途上国**の**農村開発**プログラムにも。

★これらの流れと「**地誌学**」,「**地理学**」は、どういう関係にあるものとして理解するべきか?



パン食文化の源流を求めて、アルプス・チロル地方の奥地山村マリアルカウ村に長期滞在し、帝政時代から現代に至るまでの人々の暮らしとその変容を、村人への聞き取りによって書きつづった本。

戦争に翻弄され、近代化、自由経済化の波に戸惑いながらも、変化を受け入れて生きる西欧奥地の村人の姿を、1人1人の人生をたどり、微妙な人間模様とあわせて丁寧に書き起こす。

特に、村の女性たちの仕事だった「亜麻織」に託された喜びや悲しみの物語りに心を打たれる。

遠い国から突如やってきた著者と村人との不信から受容への変化も末尾に付された手紙文で明かされて心打つ。

「異文化・異地域を知る」ということがどういふことなのか、深い感銘とともに考えさせられる珠玉の書。

・絶版なので、入手は古本サイトで
・本学図書館にあり。

1986, 筑摩書房

ルポ作品の利用

- ・ルポルタージュ、ノンフィクションものには、体験したい現場の姿を、説得力ある事実と文で描いた書も少なくない。
- ・特に、この部門で毎年最も優れた作品に贈られる「大宅壮一ノンフィクション賞」の受賞作には、地域性や異文化の理解に役立つものがそろっている。
- ・客観性、普遍性を専門分野の文献で補えば、「地域性」理解の一助になる。

・「地誌」に役立つ受賞作の数々⇒

・何よりもまず、異文化や地域問題に関心を持つことが必要。

1970	石牟礼道子	苦海浄土
1971	イザヤ・ベンダサ	日本人とユダヤ人
1971	鈴木俊子	誰も書かなかったソ連
1972	桐島洋子	淋しいアメリカ人
1973	鈴木明	南京大虐殺のまぼろし
1973	山崎朋子	サンダカン八番娼館
1976	深田祐介	新西洋事情
1977	木村治美	黄昏のロンドンから
1979	近藤絢一	サイゴンから来た妻と娘
1980	ハロラン美美子	ワシントンの街から
1984	西倉一喜	中国・グラスルーツ
1989	石川好	ストロベリー・ロード
1990	久田恵	フィリッピーナを愛した男たち
1997	野村進	コリアン世界の旅
2002	米原万里	嘘つきアーニヤの真つ赤な真実
2005	高木徹	大仏破壊 - パーミアン遺跡はなぜ破壊されたのか
2006	奥野修司	ナツコー沖縄密貿易の女王